

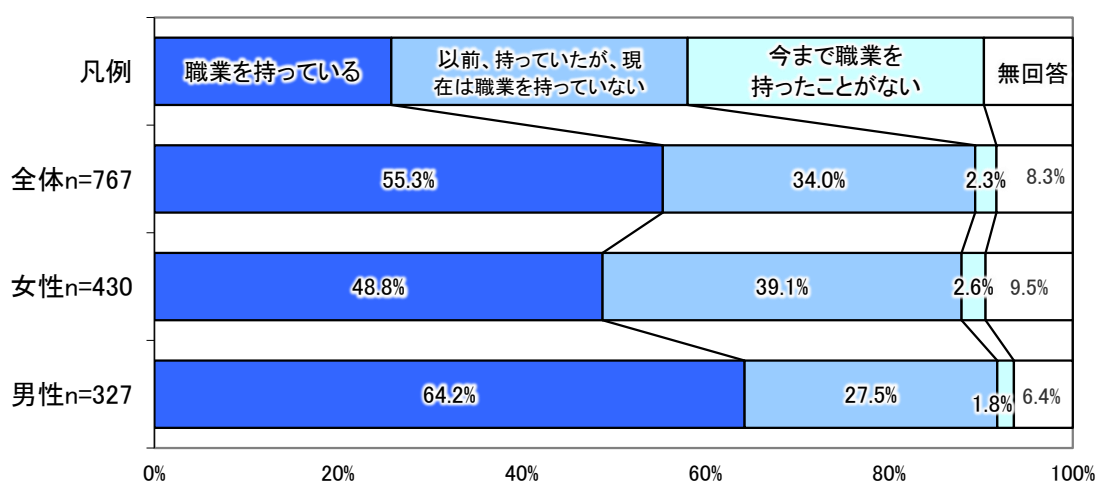
第3章 職業と健康について

1 職業の有無

問7 あなたは現在、職業を持っていますか(パート、アルバイト、家業の手伝いも含みます。ただし、学生アルバイトは含みません)。次の中から1つを選び○をつけてください。

<全体の結果>

現在、「職業を持っている」が全体の55.3%を占めており、「以前、職業を持っていたが、現在は、職業を持っていない」34.0%、「今まで職業を持ったことはない」2.3%となっている。



<前回との比較>

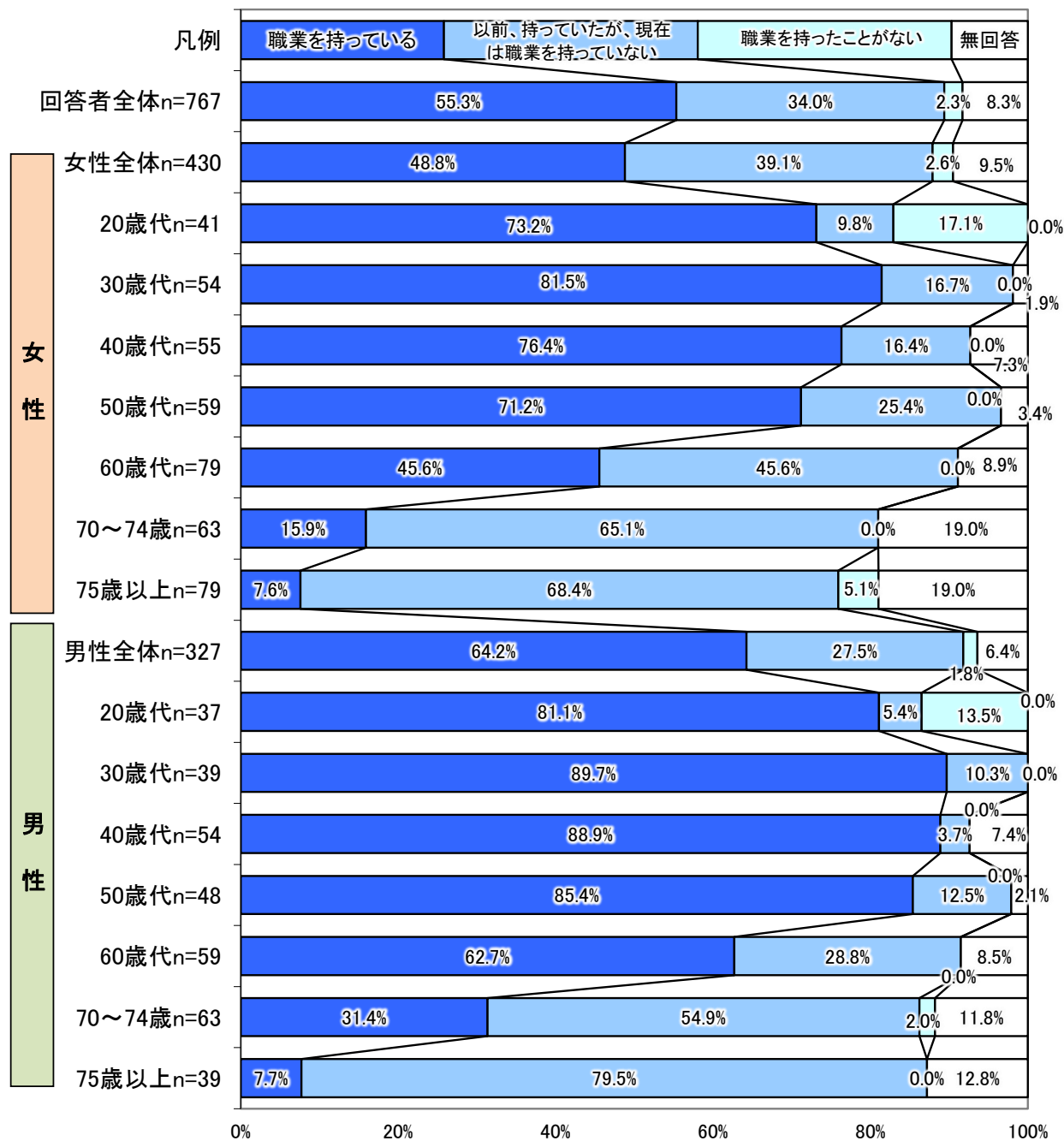
平成28年調査と比較して「職業を持っている」の割合は、4.8ポイント減少している。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
職業を持っている	61.0	60.1	55.3
以前、職業を持っていたが、現在は、職業を持っていない	22.1	31.3	34.0
今まで職業に持ったことがない	0.8	1.6	2.3
無回答	16.1	7.1	8.3
合計	100.0	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「職業を持っている」の割合が15.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女とも『20～50歳代』で「職業を持っている」の割合が極めて高く、特に「男性」の割合が高くなっている。「女性」の「20歳代」と「40歳代」、「50歳代」で「職業を持っている」は70%台となっており、同年代の「男性」の割合よりも10ポイント程度低くなっている。



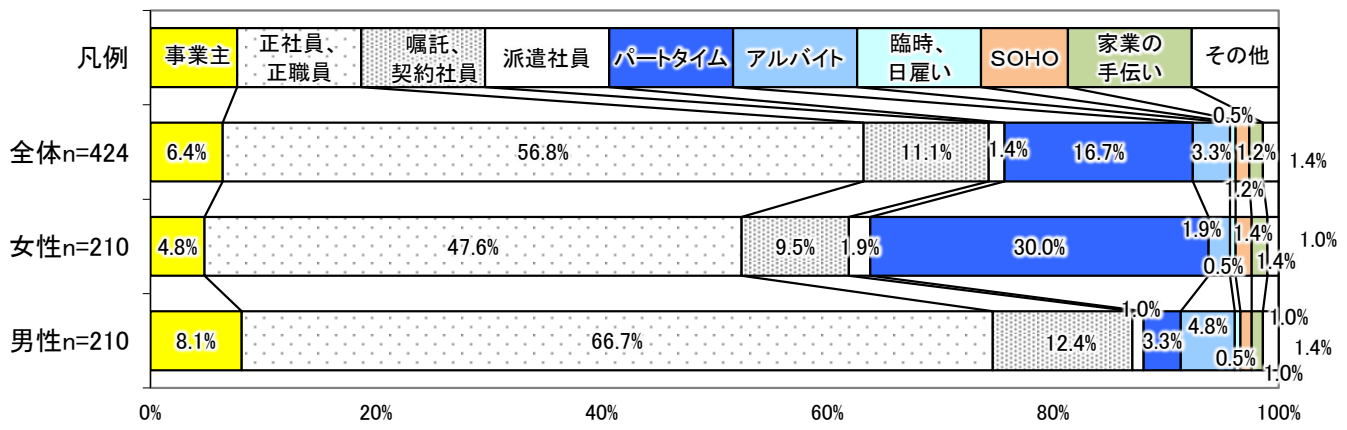
2 現在の職業の就業形態

問7で「1.職業に持っている」とお答えの方にお聞きします

問7-A あなたは、どのような形態で働いていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

現在、職業を持っている人にその就業形態を聞いたところ、「正社員、正職員」の56.8%が最も高く、これに「パートタイム」の16.7%、「嘱託、契約社員」の11.1%が続いている。性別にみると、「正社員、正職員」の割合は「男性」の66.7%に対し、「女性」47.6%と19.1ポイント低くなっている。



※SOHO…在宅でパソコンを使うなどして仕事を行うスタイルのこと

<前回との比較>

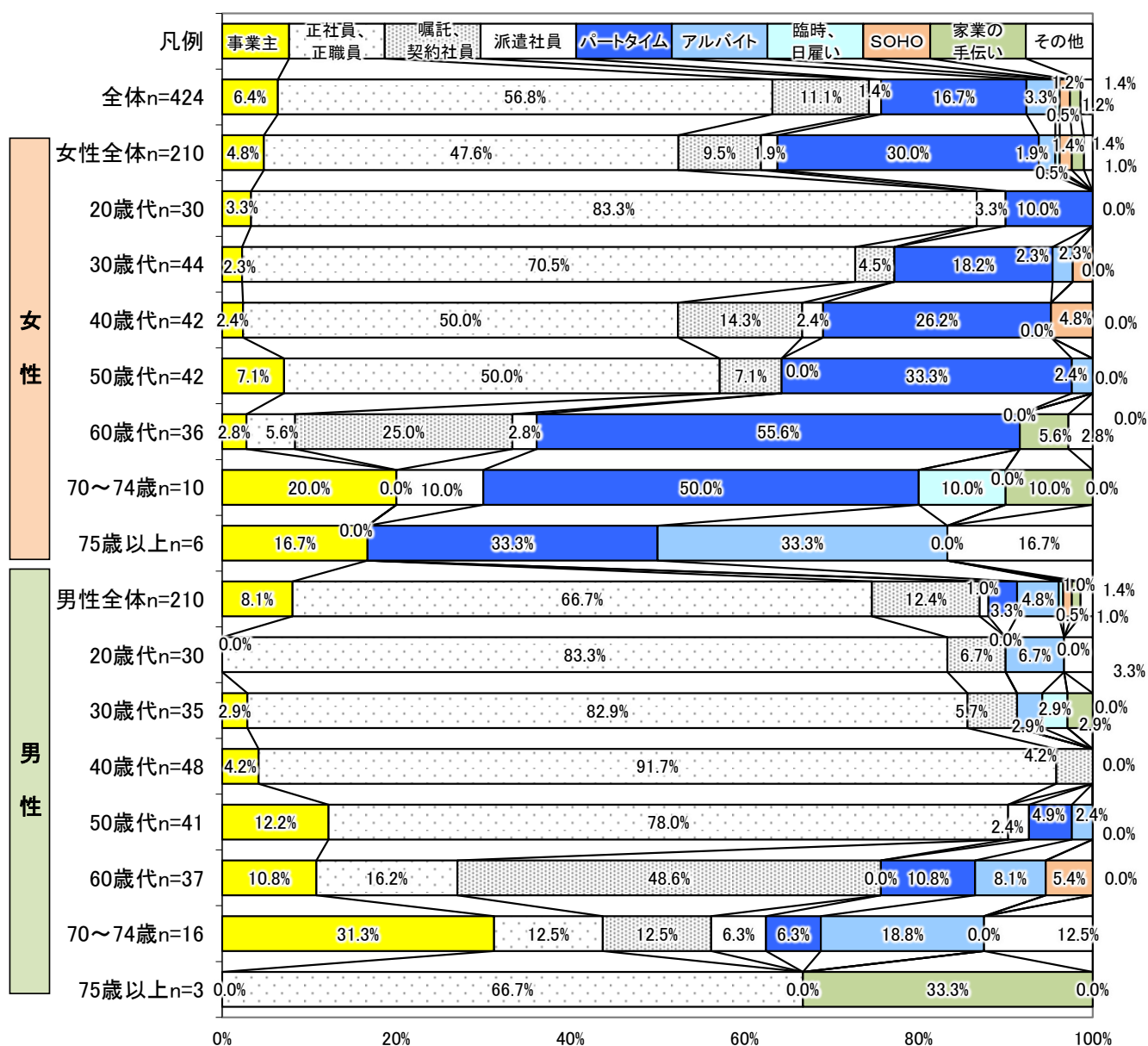
平成28年調査と比較して5ポイント以上の増減があった就業形態は、「正社員、正職員」（令和3年56.8%、5.1ポイント増）となっている。

	平成23年 n=480 %	平成28年 n=424 %	令和3年 n=424 %
事業主	11.9	8.5	6.4
正社員、正職員	45.0	51.7	56.8
嘱託、契約社員	6.3	12.7	11.1
派遣社員	1.3	2.8	1.4
パートタイム	22.1	13.0	16.7
アルバイト	2.7	4.2	3.3
臨時、日雇い	2.5	1.9	0.5
SOHO(在宅でパソコンを使うなどして仕事を行うスタイルのこと)	0.2	2.1	1.2
家業(お店や農林漁業など)の手伝い	5.8	2.6	1.2
その他	1.3	0.5	1.4
合計	100.0	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「正社員、正職員」の割合が19.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「正社員、正職員」の割合は「20歳代」で80%台となっているが、『30～50歳代』では50～70%台に減少している。これに対し「男性」で、『30～50歳代』の「正社員、正職員」の割合は70%台以上となっている。「女性」の『40歳代以上』は「パートタイム」の割合が高い。

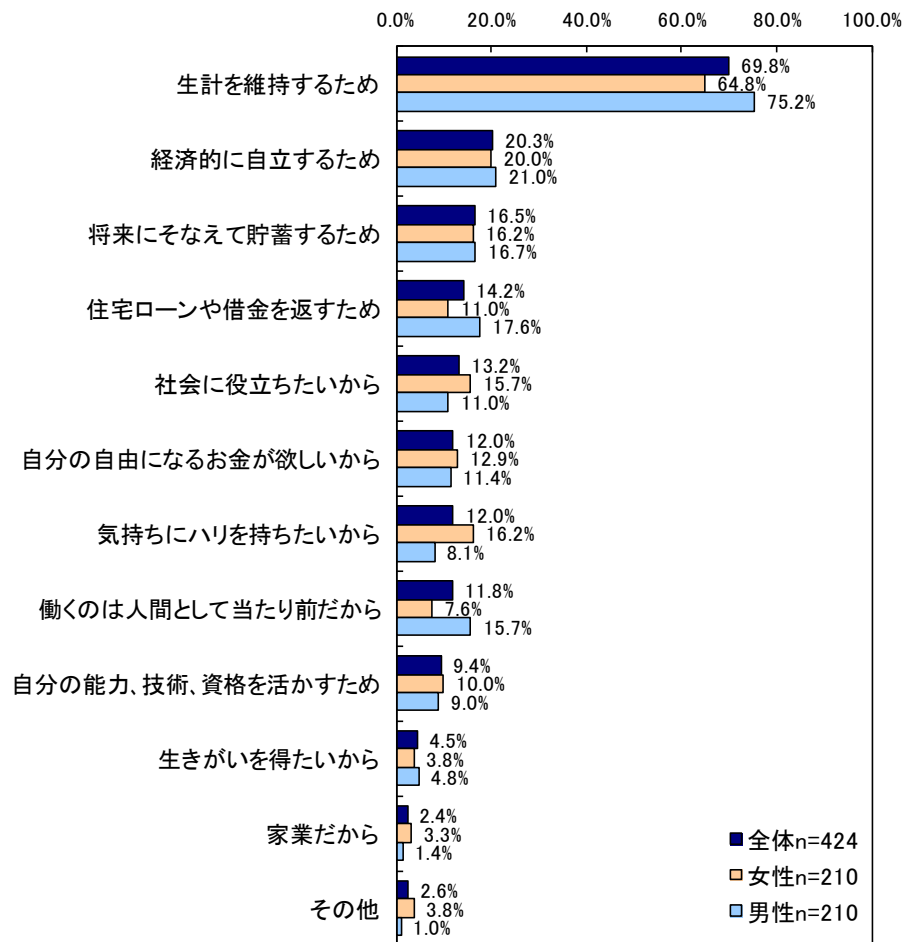


3 就労理由

問 7-B あなたが現在、職業を持っているのは、どういう理由からですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

現在、職業を持っている人にその理由を聞いたところ、「生計を維持するため」が最も高く、全体の69.8%を占めている。以下、回答割合の高い方から、「経済的に自立するため」(20.3%)、「将来にそなえて貯蓄するため」(16.5%)、「住宅ローンや借金を返すため」(14.2%)、「社会の役に立ちたいから」(13.2%)の順となっている。



<前回との比較>

平成 28 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減があった就労理由は、「経済的に自立するため」(令和 3 年 20.3%、5.4 ポイント増)、「働くのは人間として当たり前だから」(令和 3 年 11.8%、5.2 ポイント減)となっている。

	平成23年 n=480 %	平成28年 n=424 %	令和3年 n=424 %
生計を維持するため	69.4	73.1	69.8
住宅ローンや借金を返すため	14.0	11.8	14.2
将来にそなえて貯蓄するため	14.8	11.6	16.5
経済的に自立するため	6.9	14.9	20.3
自分の自由になるお金が欲しいから	7.1	7.3	12.0
自分の能力、技術、資格を活かすため	11.7	9.7	9.4
社会に役立ちたいから	8.8	9.9	13.2
気持ちにハリを持ちたいから	13.5	10.4	12.0
働くのは人間として当たり前だから	17.9	17.0	11.8
生きがいを得たいから	—	6.4	4.5
家業だから	7.3	2.6	2.4
その他	1.5	4.2	2.6

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「生計を維持するため」、「住宅ローンや借金を返すため」、「働くのは人間として当たり前」の割合が高くなっている。これに対し、「女性」は「男性」と比べ「社会に役立ちたいから」と「気持ちにハリを持ちたいから」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、『20～30 歳代』は性別に関わらず「経済的に自立するため」の割合が高く、「男性」の『30～50 歳代』は「生計を維持するため」の割合が80%台以上で高くなっている。

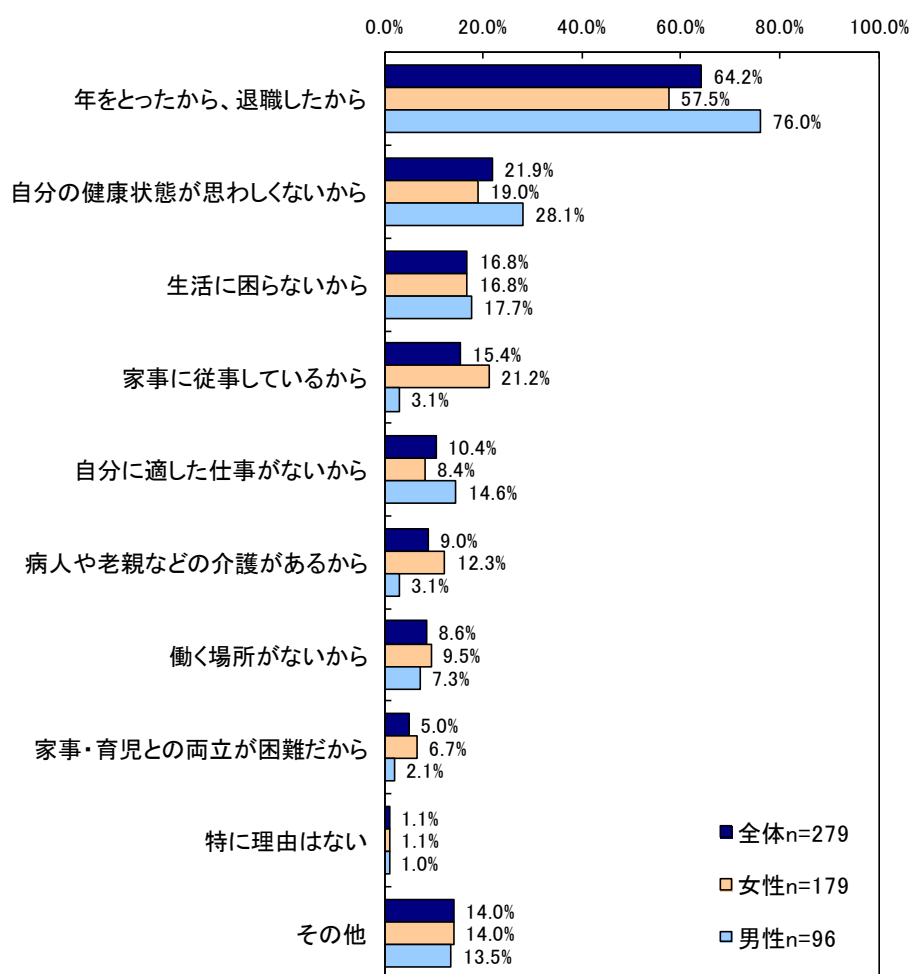
	合計	生計を維持するため	住宅ローンや借金を返すため	将来にそなえて貯蓄するため	経済的に自立するため	自分の自由になるお金が欲しいから	自分の能力、技術、資格を活かすため	社会に役立ちたいから	気持ちにハリを持ちたいから	働くのは人間として当たり前だから	生きがいを得たいから	家業だから	その他	
全体	424	296 69.8%	60 14.2%	70 16.5%	86 20.3%	51 12.0%	40 9.4%	56 13.2%	51 12.0%	50 11.8%	19 4.5%	10 2.4%	11 2.6%	
女性	小計	210	136 64.8%	23 11.0%	34 16.2%	42 20.0%	27 12.9%	21 10.0%	33 15.7%	34 16.2%	16 7.6%	8 3.8%	7 3.3%	8 3.8%
	20歳代	30	19 63.3%	0 0.0%	4 13.3%	13 43.3%	4 13.3%	4 13.3%	8 26.7%	0 0.0%	4 13.3%	1 3.3%	0 0.0%	1 3.3%
	30歳代	44	30 68.2%	6 13.6%	8 18.2%	12 27.3%	9 20.5%	5 11.4%	7 15.9%	4 9.1%	2 4.5%	0 0.0%	1 2.3%	1 2.3%
	40歳代	42	31 73.8%	6 14.3%	7 16.7%	9 21.4%	2 4.8%	2 4.8%	8 19.0%	5 11.9%	5 11.9%	1 2.4%	1 2.4%	2 4.8%
	50歳代	42	31 73.8%	7 16.7%	10 23.8%	6 14.3%	6 14.3%	5 11.9%	3 7.1%	5 11.9%	3 7.1%	1 2.4%	1 2.4%	2 4.8%
	60歳代	36	18 50.0%	4 11.1%	4 11.1%	2 5.6%	5 13.9%	4 11.1%	6 16.7%	10 27.8%	1 2.8%	1 2.8%	3 8.3%	2 5.6%
	70～74歳	10	6 60.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	1 10.0%	6 60.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%
	75歳以上	6	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
	男性	小計	210	158 75.2%	37 17.6%	35 16.7%	44 21.0%	24 11.4%	19 9.0%	23 11.0%	17 8.1%	33 15.7%	10 4.8%	3 1.4%
20歳代	30	21 70.0%	1 3.3%	5 16.7%	14 46.7%	6 20.0%	1 3.3%	4 13.3%	0 0.0%	3 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
30歳代	35	28 80.0%	8 22.9%	8 22.9%	10 28.6%	4 11.4%	2 5.7%	1 2.9%	1 2.9%	5 14.3%	0 0.0%	1 2.9%	1 2.9%	
40歳代	48	41 85.4%	16 33.3%	6 12.5%	7 14.6%	3 6.3%	7 14.6%	5 10.4%	2 4.2%	10 20.8%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	
50歳代	41	39 95.1%	7 17.1%	5 12.2%	9 22.0%	5 12.2%	2 4.9%	4 9.8%	1 2.4%	11 26.8%	2 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	
60歳代	37	22 59.5%	5 13.5%	6 16.2%	1 2.7%	6 16.2%	4 10.8%	7 18.9%	7 18.9%	2 5.4%	3 8.1%	1 2.7%	0 0.0%	
70～74歳	16	6 37.5%	0 0.0%	4 25.0%	2 12.5%	0 0.0%	3 18.8%	2 12.5%	5 31.3%	2 12.5%	4 25.0%	1 6.3%	1 6.3%	
75歳以上	3	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

4 就労していない理由

問7で「2.職業を持っていない」、「3.職業を持ったことがない」とお答えの方にお聞きします。
 問7-C あなたが現在、職業についていないのは、どのような理由からですか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

現在、職業を持っていない人にその理由を聞いたところ、「年をとったから、退職したから」が最も高く、全体の64.2%を占めている。以下、回答割合の高い方から、「自分の健康状態が思わしくないから」(21.9%)、「生活に困らないから」(16.8%)、「家事に従事しているから」(15.4%)、「自分に適した仕事がないから」(10.4%)の順となっている。



<前回との比較>

平成 28 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減があった就労していない理由は、「家事に従事しているから（平成 23 年「家事も立派な仕事だから）」（令和 3 年 15.4%、6.8 ポイント増）、「年をとったから、退職したから」（令和 3 年 64.2%、6.9 ポイント減）、「病人や老親などの介護があるから」（令和 3 年 9.0%、5.1 ポイント増）、「特に理由はない」（令和 3 年 1.1%、10.1 ポイント減）、「その他」（令和 3 年 14.0%、6.2 ポイント増）となっている。

	平成23年 n=480 %	平成28年 n=232 %	令和3年 n=279 %
家事に従事しているから	17.2	8.6	15.4
年をとったから、退職したから	60.0	71.1	64.2
生活に困らないから	18.3	12.9	16.8
自分の健康状態が思わしくないから	16.7	22.8	21.9
家事・育児との両立が困難だから	11.7	1.7	5.0
病人や老親などの介護があるから	8.3	3.9	9.0
自分に適した仕事がないから	13.3	13.8	10.4
働く場所がないから	15.0	12.1	8.6
特に理由はない	—	11.2	1.1
その他	8.3	7.8	14.0

※平成28年調査の「家事に従事しているから」の質問は、平成23年調査では「家事も立派な仕事だから」となっている。

<性別にみた結果>

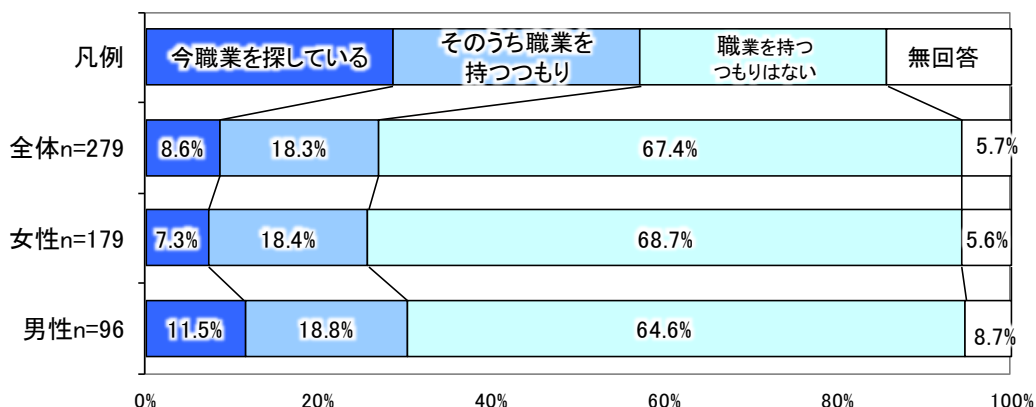
性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「年をとったから、退職したから」、「自分の健康状態が思わしくないから」、「自分に適した仕事がないから」の割合が高くなっている。これに対し、「女性」は「男性」と比べ「家事に従事しているから」、「病人や老親などの介護があるから」の割合が高くなっている。

5 今後の就労意向

問7で「2.職業を持っていない」、「3.職業を持ったことがない」とお答えの方にお聞きします。
問7-D あなたは今後、職業を持ちたいですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

今後の就労意向をみると、「職業を持つつもりはない」が最も高く、全体の67.4%を占めている。「今職業を探している」と「そのうち職業を持つつもり」を合わせた『就労意向』を持つ人は26.9%となっている。



<前回との比較>

平成28年調査と比較して5ポイント以上の増減があった今後の就労意向に関わる項目は、「今職業を探している」と「そのうち職業を持つつもり」を合わせた『就労意向』を持つ人の割合（令和3年26.9%、6.6ポイント増）となっている。

	平成23年 n=180 %	平成28年 n=232 %	令和3年 n=279 %
今職業を探している	8.3	5.6	8.6
そのうち職業を持つつもり	20.0	14.7	18.3
職業を持つつもりはない	62.8	66.8	67.4
無回答	8.9	12.9	5.7
合計	100.0	100.0	100.0

<性別にみた結果>

性別に差は認められない。『今後の職業意向を持つ人（「今職業を探している」または「そのうち職業を持つつもり」）』の割合をみると、「男性」全体の30.3%に対し、「女性」は全体の25.7%となっている。

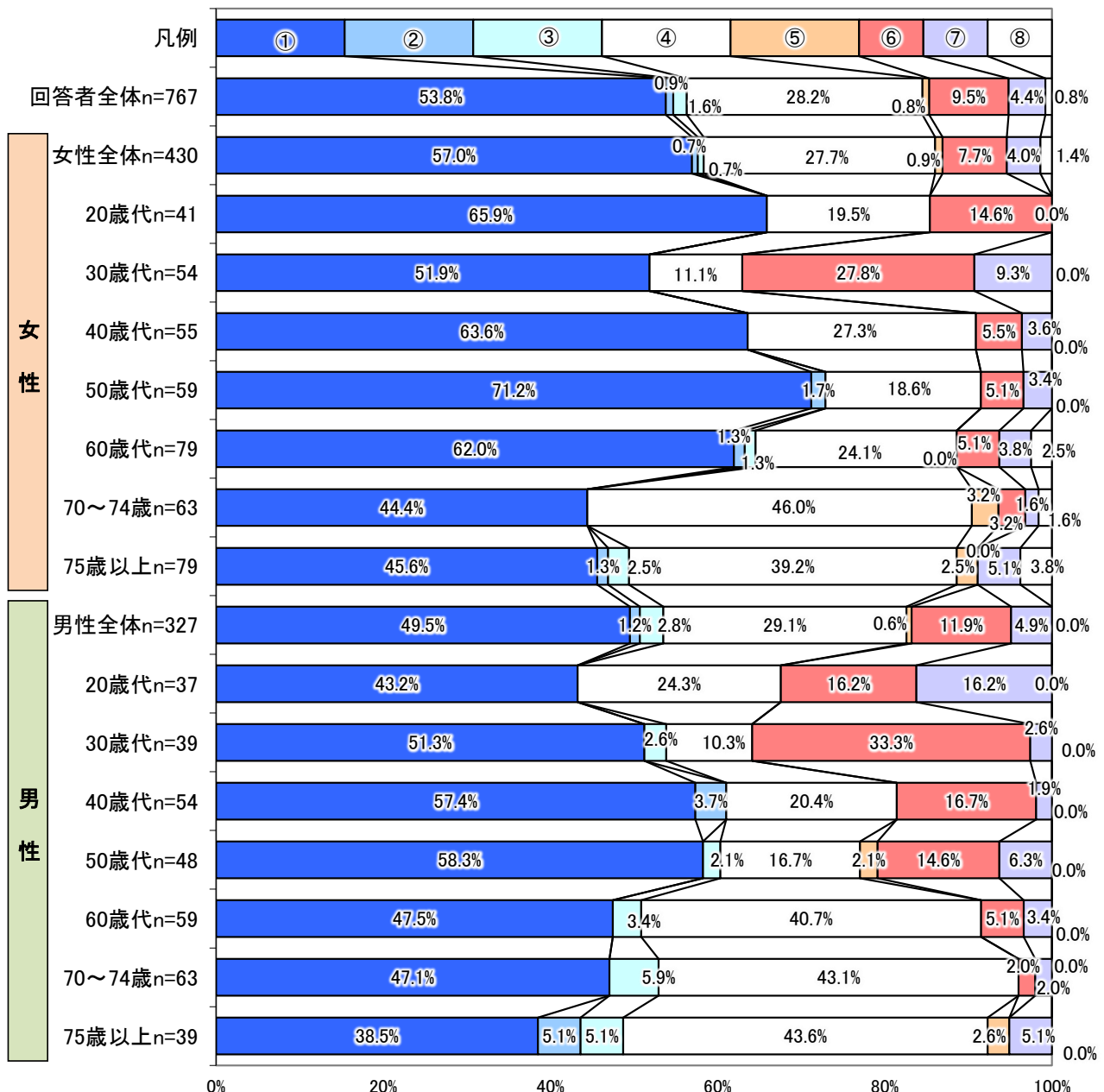
6 女性の就労についての考え方

問8 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

女性が職業を持つことについての考えをみると、「ずっと職業を持っているほうがよい」の53.8%が最も高く、これに「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」の28.2%が続いている。

- ① ずっと職業を持っているほうがよい
- ② 結婚するまでは職業を持ち、あとは持たないほうがよい
- ③ 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たないほうがよい
- ④ 子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい
- ⑤ 女性は職業を持たないほうがよい
- ⑥ その他
- ⑦ わからない
- ⑧ 無回答



<前回との比較>

平成 28 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減があった項目は、「ずっと職業を持っているほうがよい」（令和 3 年 53.8%、8.0 ポイント増）、「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなつて再び持つほうがよい」（令和 3 年 28.2%、7.1 ポイント減）となっている。平成 23 年調査では「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなつて再び持つほうがよい」が最も高くなっていたが、平成 28 年以降の調査結果では順位が逆転し「ずっと職業を持っているほうがよい」が最も高くなっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
ずっと職業を持っているほうがよい	39.3	45.8	53.8
結婚するまでは職業を持ち、あとは持たないほうがよい	1.7	1.3	0.9
子どもができるまで職業を持ち、あとは持たないほうがよい	2.7	2.3	1.6
子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなつて再び持つほうがよい	43.3	35.3	28.2
女性は職業を持たないほうがよい	0.8	0.8	0.8
その他	4.1	5.8	9.5
わからない	5.3	6.5	4.4
無回答	2.9	2.3	0.8
合計	100.0	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

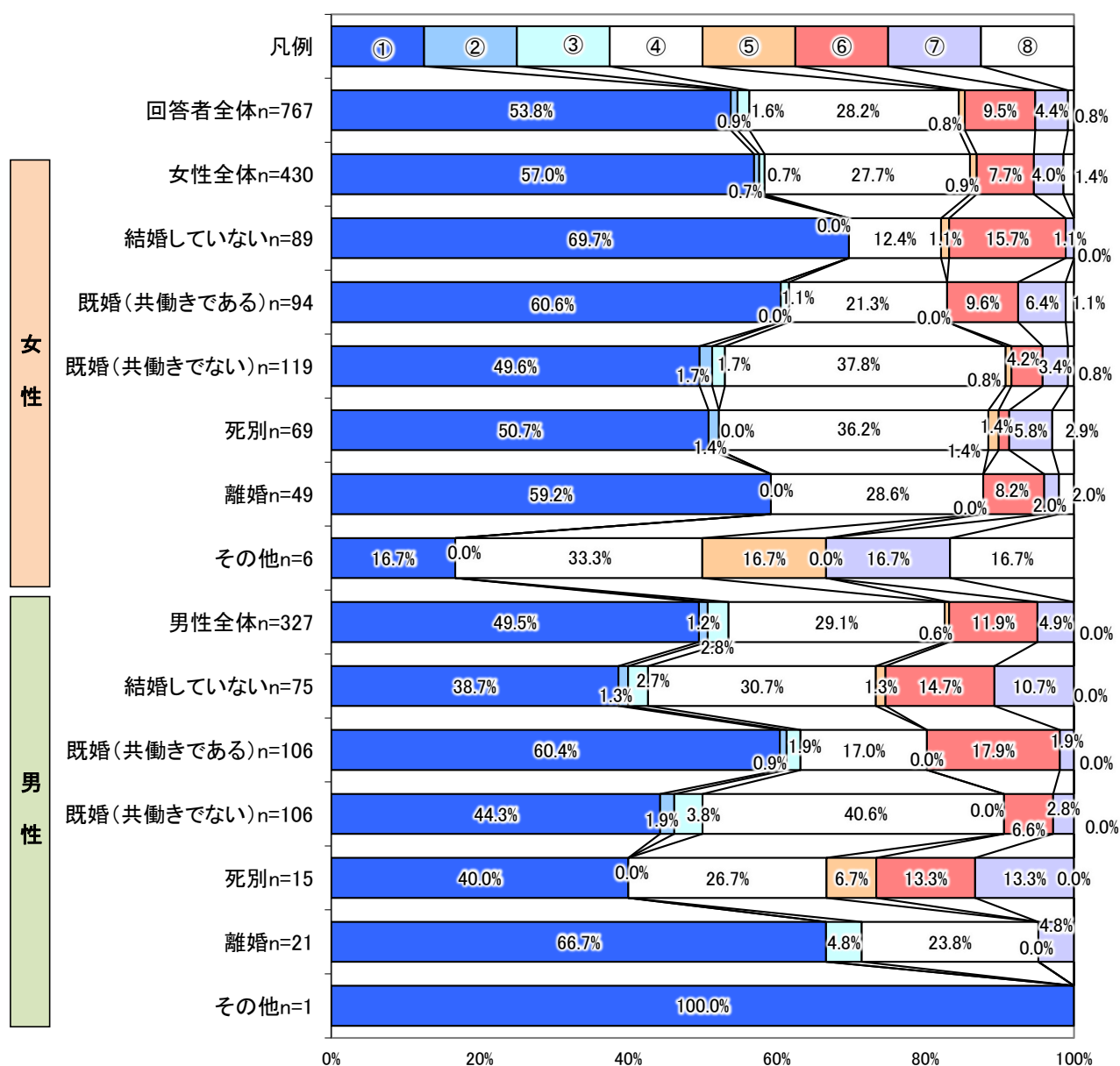
性別にみると、「女性」は「男性」と比べ「ずっと職業を持っているほうがよい」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『40～60 歳代』は「ずっと職業を持っているほうがよい」の割合が高いほか、『20～30 歳代』では「その他」の割合が高くなっている。一方、「男性」の『60 歳以上』は「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなつて再び持つほうがよい」の割合が高くなっている。

<結婚の有無別にみた結果>

「女性」の「結婚していない」と「離婚」、「男性」の「既婚（共働きである）」では他の層と比べて「ずっと職業を持っているほうがよい」の割合が高い。これに対し、「男性」の「結婚していない」と「既婚（共働きでない）」では「子どもができたなら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」の割合が高い。このほか、「女性」の「既婚（共働きでない）」と「死別」では、「子どもができたなら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」の割合が高くなっている。

- ① ずっと職業を持っているほうがよい
- ② 結婚するまでは職業を持ち、あとは持たないほうがよい
- ③ 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たないほうがよい
- ④ 子どもができたなら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい
- ⑤ 女性は職業を持たないほうがよい
- ⑥ その他
- ⑦ わからない
- ⑧ 無回答

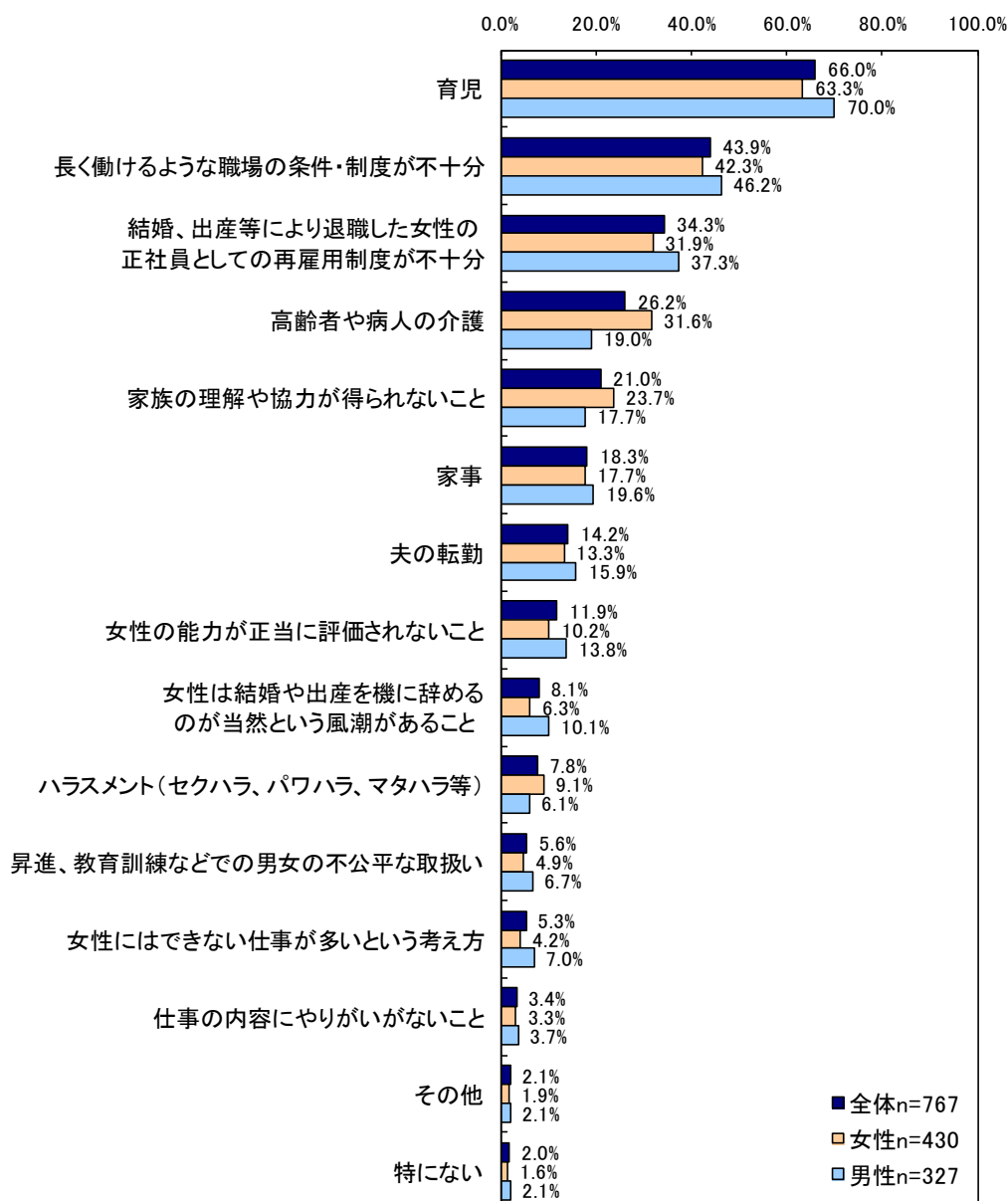


7 女性が職業を持ち続けることが困難な理由

問9 あなたは、女性が職業を持ち続けることを困難にしていることがあるとすれば、それは何だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

女性が職業を持ち続けることの困難の理由をみると、「育児」の66.0%が最も高く、これに「長く働けるような職場の条件・制度が不十分」の43.9%、「結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分」の34.3%が続いている。



<前回との比較>

平成28年調査と比較して5ポイント以上の増減があった項目は、「育児」（令和3年66.0%、5.8ポイント増）、「夫の転勤」（令和3年14.2%、5.4ポイント増）、「女性は結婚や出産を機に辞めるのが当然という風潮があること」（令和3年8.1%、7.3ポイント減）となっている。「育児」、「転勤」などの困難が増加傾向であることが示されたが、平成28年の調査で新設された「女性は結婚や出産を機に辞めるのが当然という風潮があること」は減少傾向となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
育児	67.9	60.2	66.0
高齢者や病人の介護	27.3	24.6	26.2
夫の転勤	7.5	8.8	14.2
家事	24.0	17.7	18.3
家族の理解や協力が得られないこと	21.3	16.6	21.0
女性の能力が正當に評価されないこと	10.2	12.2	11.9
仕事の内容にやりがいがないこと	2.4	1.7	3.4
長く働けるような職場の条件・制度が不十分	48.7	44.9	43.9
結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分	41.9	37.4	34.3
昇進、教育訓練などでの男女の不公平な取扱い	4.3	3.7	5.6
ハラスメント（セクハラ、パワハラ、マタハラ等）	1.0	3.4	7.8
女性は結婚や出産を機に辞めるのが当然という風潮があること	—	15.4	8.1
女性にはできない仕事が多いという考え方	3.4	5.1	5.3
その他	1.7	2.3	2.1
特になし	1.3	3.5	2.0

※平成28年調査の選択肢「ハラスメント（セクハラ、パワハラ、マタハラ等）」は、平成23年調査では「セクシュアル・ハラスメント」となっている。

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べ「高齢者や病人の介護」と「家族の理解や協力が得られないこと」の割合が高くなっている。これに対し、「男性」は「女性」と比べ「育児」と「結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『50歳以上』は「高齢者や病人の介護」の割合が高いほか、「30歳代」では「育児」、「20歳代」では「女性の能力が正当に評価されない」、「再雇用制度が不十分」、「ハラスメント」の割合が高くなっている。一方、「男性」の『20～40歳代』は「育児」の割合が高くなっている。

	合計	育児	高齢者や病人の介護	夫の転勤	家事	家族の理解や協力が得られないこと	女性の能力が正当に評価されないこと	仕事の内容にやりがいがないこと	長く働けるような職場の条件・制度が不十分	雇用制度が不十分	結婚・出産等により退職した女性の正社員としての再雇用	昇進・公平な取扱いなどの男女の不平等	パワハラ、セクハラ、マタハラ等	女性の結婚や出産を機に辞めることが当然という風潮があること	女性にはできない仕事が多いという考え方	その他	特になし
全体	767	506	201	109	140	161	91	26	337	263	43	60	62	41	16	15	
		66.0%	26.2%	14.2%	18.3%	21.0%	11.9%	3.4%	43.9%	34.3%	5.6%	7.8%	8.1%	5.3%	2.1%	2.0%	
小計	430	272	136	57	76	102	44	14	182	137	21	39	27	18	8	7	
		63.3%	31.6%	13.3%	17.7%	23.7%	10.2%	3.3%	42.3%	31.9%	4.9%	9.1%	6.3%	4.2%	1.9%	1.6%	
女性	20歳代	41	27	7	6	8	4	7	3	16	20	4	11	2	2	0	0
			65.9%	17.1%	14.6%	19.5%	9.8%	17.1%	7.3%	39.0%	48.8%	9.8%	26.8%	4.9%	4.9%	0.0%	0.0%
	30歳代	54	44	11	9	12	8	5	3	26	12	3	9	4	3	2	0
			81.5%	20.4%	16.7%	22.2%	14.8%	9.3%	5.6%	48.1%	22.2%	5.6%	16.7%	7.4%	5.6%	3.7%	0.0%
	40歳代	55	38	18	9	8	16	3	1	25	18	2	4	4	2	3	0
			69.1%	32.7%	16.4%	14.5%	29.1%	5.5%	1.8%	45.5%	32.7%	3.6%	7.3%	7.3%	3.6%	5.5%	0.0%
	50歳代	59	36	22	7	15	15	5	1	18	13	3	3	3	0	1	3
			61.0%	37.3%	11.9%	25.4%	25.4%	8.5%	1.7%	30.5%	22.0%	5.1%	5.1%	5.1%	0.0%	1.7%	5.1%
60歳代	79	47	30	5	9	29	7	4	39	27	2	7	4	5	0	0	
		59.5%	38.0%	6.3%	11.4%	36.7%	8.9%	5.1%	49.4%	34.2%	2.5%	8.9%	5.1%	6.3%	0.0%	0.0%	
70～74歳	63	38	24	6	8	11	8	1	26	28	3	2	9	3	1	1	
		60.3%	38.1%	9.5%	12.7%	17.5%	12.7%	1.6%	41.3%	44.4%	4.8%	3.2%	14.3%	4.8%	1.6%	1.6%	
75歳以上	79	42	24	15	16	19	9	1	32	19	4	3	1	3	1	3	
		53.2%	30.4%	19.0%	20.3%	24.1%	11.4%	1.3%	40.5%	24.1%	5.1%	3.8%	1.3%	3.8%	1.3%	3.8%	
男性	小計	327	229	62	52	64	58	45	12	151	122	22	20	33	23	7	7
			70.0%	19.0%	15.9%	19.6%	17.7%	13.8%	3.7%	46.2%	37.3%	6.7%	6.1%	10.1%	7.0%	2.1%	2.1%
	20歳代	37	29	2	4	10	5	4	1	15	13	1	4	4	4	0	0
			78.4%	5.4%	10.8%	27.0%	13.5%	10.8%	2.7%	40.5%	35.1%	2.7%	10.8%	10.8%	10.8%	0.0%	0.0%
	30歳代	39	28	4	9	9	8	5	2	16	13	2	4	4	5	4	2
			71.8%	10.3%	23.1%	23.1%	20.5%	12.8%	5.1%	41.0%	33.3%	5.1%	10.3%	10.3%	12.8%	10.3%	5.1%
	40歳代	54	42	10	7	12	14	7	1	22	20	4	2	9	3	2	2
			77.8%	18.5%	13.0%	22.2%	25.9%	13.0%	1.9%	40.7%	37.0%	7.4%	3.7%	16.7%	5.6%	3.7%	3.7%
50歳代	48	32	11	9	7	10	11	2	21	22	5	2	4	1	1	1	
		66.7%	22.9%	18.8%	14.6%	20.8%	22.9%	4.2%	43.8%	45.8%	10.4%	4.2%	8.3%	2.1%	2.1%	2.1%	
60歳代	59	39	13	12	12	8	9	2	28	20	3	4	5	3	0	0	
		66.1%	22.0%	20.3%	20.3%	13.6%	15.3%	3.4%	47.5%	33.9%	5.1%	6.8%	8.5%	5.1%	0.0%	0.0%	
70～74歳	51	32	12	3	4	9	5	4	34	21	4	2	3	5	0	0	
		62.7%	23.5%	5.9%	7.8%	17.6%	9.8%	7.8%	66.7%	41.2%	7.8%	3.9%	5.9%	9.8%	0.0%	0.0%	
75歳以上	39	27	10	8	10	4	4	0	15	13	3	2	4	2	0	2	
		69.2%	25.6%	20.5%	25.6%	10.3%	10.3%	0.0%	38.5%	33.3%	7.7%	5.1%	10.3%	5.1%	0.0%	5.1%	

<結婚の有無別にみた結果>

「女性」の「既婚（共働きである）」では「育児」、「高齢者や病人の介護」、「夫の転勤」の割合が高くなっている。「男性」の「既婚（共働きである）」と「既婚（共働きでない）」では「長く働けるような職場の条件・制度が不十分」の割合が高い。

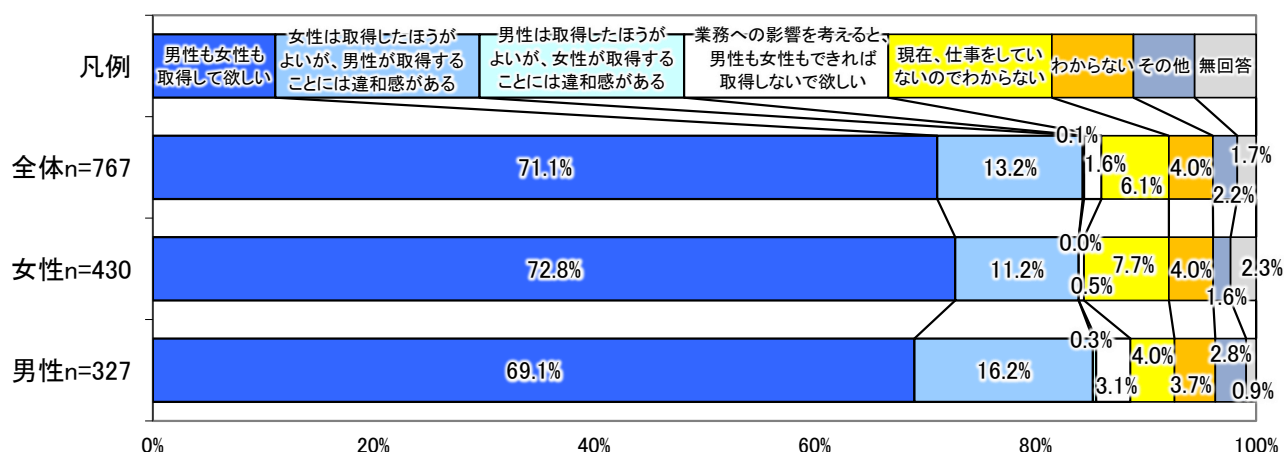
	合計	育児	高齢者や病人の介護	夫の転勤	家事	家族の理解や協力が得られないこと	女性の能力が正当に評価されないこと	仕事の内容にやりがいがないこと	長く働けるような職場の条件・制度が不十分	雇用制度が不十分	結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用	昇進、教育訓練などでの男女の不公平な取扱い	ハラハラ、メンタハラ等	めづるものが当然という風潮があること	女性にはできない仕事が多いという考え	その他	特になし
全体	767	506	201	109	140	161	91	26	337	263	43	60	62	41	16	15	
		66.0%	26.2%	14.2%	18.3%	21.0%	11.9%	3.4%	43.9%	34.3%	5.6%	7.8%	8.1%	5.3%	2.1%	2.0%	
女性	430	272	136	57	76	102	44	14	182	137	21	39	27	18	8	7	
小計		63.3%	31.6%	13.3%	17.7%	23.7%	10.2%	3.3%	42.3%	31.9%	4.9%	9.1%	6.3%	4.2%	1.9%	1.6%	
結婚していない	89	49	22	9	13	19	14	5	44	34	13	17	4	5	1	0	
		55.1%	24.7%	10.1%	14.6%	21.3%	15.7%	5.6%	49.4%	38.2%	14.6%	19.1%	4.5%	5.6%	1.1%	0.0%	
既婚（共働きである）	94	69	33	20	18	20	4	3	44	22	0	6	5	1	4	0	
		73.4%	35.1%	21.3%	19.1%	21.3%	4.3%	3.2%	46.8%	23.4%	0.0%	6.4%	5.3%	1.1%	4.3%	0.0%	
既婚（共働きでない）	119	78	34	9	26	35	11	1	42	39	2	9	6	6	1	3	
		65.5%	28.6%	7.6%	21.8%	29.4%	9.2%	0.8%	35.3%	32.8%	1.7%	7.6%	5.0%	5.0%	0.8%	2.5%	
死別	69	36	28	11	10	10	8	3	29	20	3	5	6	4	1	2	
		52.2%	40.6%	15.9%	14.5%	14.5%	11.6%	4.3%	42.0%	29.0%	4.3%	7.2%	8.7%	5.8%	1.4%	2.9%	
離婚	49	37	15	6	8	16	5	2	19	18	2	2	4	2	1	2	
		75.5%	30.6%	12.2%	16.3%	32.7%	10.2%	4.1%	38.8%	36.7%	4.1%	4.1%	8.2%	4.1%	2.0%	4.1%	
その他	6	2	3	1	1	1	2	0	2	2	1	0	0	0	0	0	
		33.3%	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
男性	327	229	62	52	64	58	45	12	151	122	22	20	33	23	7	7	
小計		70.0%	19.0%	15.9%	19.6%	17.7%	13.8%	3.7%	46.2%	37.3%	6.7%	6.1%	10.1%	7.0%	2.1%	2.1%	
結婚していない	75	52	14	7	16	12	14	6	30	25	5	8	6	9	4	2	
		69.3%	18.7%	9.3%	21.3%	16.0%	18.7%	8.0%	40.0%	33.3%	6.7%	10.7%	8.0%	12.0%	5.3%	2.7%	
既婚（共働きである）	106	77	20	15	17	21	17	4	51	40	7	7	11	4	2	2	
		72.6%	18.9%	14.2%	16.0%	19.8%	16.0%	3.8%	48.1%	37.7%	6.6%	6.6%	10.4%	3.8%	1.9%	1.9%	
既婚（共働きでない）	106	72	23	22	23	18	11	1	53	41	8	4	10	9	0	2	
		67.9%	21.7%	20.8%	21.7%	17.0%	10.4%	0.9%	50.0%	38.7%	7.5%	3.8%	9.4%	8.5%	0.0%	1.9%	
死別	15	9	2	6	3	2	0	0	8	6	0	0	2	0	0	0	
		60.0%	13.3%	40.0%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%	53.3%	40.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
離婚	21	16	2	1	5	5	2	1	6	9	2	0	4	1	1	1	
		76.2%	9.5%	4.8%	23.8%	23.8%	9.5%	4.8%	28.6%	42.9%	9.5%	0.0%	19.0%	4.8%	4.8%	4.8%	
その他	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

8 育児休業取得についての考え方

問 10 あなたは、職場の男性または女性が育児休業を取得するとしたら、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

育児休業を取得することについての考え方をみると、「男性も女性も取得して欲しい」の71.1%が最も高く、これに「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の13.2%が続いている。



<前回との比較>

平成28年調査と比較して5ポイント以上の増減があった項目は、「男性も女性も取得して欲しい」（令和3年71.1%、16.9ポイント増）、「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」（令和3年13.2%、15.8ポイント減）となっている。

	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
男性も女性も取得して欲しい	54.2	71.1
女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある	29.0	13.2
男性は取得したほうがよいが、女性が取得することには違和感がある	0.1	0.1
業務への影響を考えると、男性も女性もできれば取得しないで欲しい	2.1	1.6
現在、仕事をしていないのでわからない	5.9	6.1
わからない	4.1	4.0
その他	2.0	2.2
無回答	2.4	1.7
合計	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別による大きな差は認められないが、「男性」は「女性」と比べ「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の割合がやや高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」では『20～40 歳代』は「男性も女性も取得して欲しい」の割合が高く 80%台以上を占めている。一方、「男性」の『20～40 歳代』は「男性も女性も取得して欲しい」が高く 70%台以上となっているが、『60 歳代以上』では「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の割合が 20%台と比較的高くなっている。

	合計	男性も女性も取得して欲しい	男性も女性も取得したほうがよいが、違和感がある	女性も取得したほうがよいが、違和感がある	男性も取得したほうがよいが、違和感がある	も業務への影響を考えると、男性も女性も取得したほうがよいが、違和感がある	わからない	わからない	その他	無回答
全体	767	545	101	1	12	47	31	17	13	
	100.0%	71.1%	13.2%	0.1%	1.6%	6.1%	4.0%	2.2%	1.7%	
女性	430	313	48	0	2	33	17	7	10	
小計	100.0%	72.8%	11.2%	0.0%	0.5%	7.7%	4.0%	1.6%	2.3%	
20歳代	41	39	1	0	0	1	0	0	0	
	100.0%	95.1%	2.4%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
30歳代	54	45	6	0	0	0	0	2	1	
	100.0%	83.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	1.9%	
40歳代	55	46	4	0	0	2	2	1	0	
	100.0%	83.6%	7.3%	0.0%	0.0%	3.6%	3.6%	1.8%	0.0%	
50歳代	59	44	6	0	2	3	2	2	0	
	100.0%	74.6%	10.2%	0.0%	3.4%	5.1%	3.4%	3.4%	0.0%	
60歳代	79	59	10	0	0	7	2	0	1	
	100.0%	74.7%	12.7%	0.0%	0.0%	8.9%	2.5%	0.0%	1.3%	
70～74 歳	63	44	6	0	0	9	2	1	1	
	100.0%	69.8%	9.5%	0.0%	0.0%	14.3%	3.2%	1.6%	1.6%	
75歳以上	79	36	15	0	0	11	9	1	7	
	100.0%	45.6%	19.0%	0.0%	0.0%	13.9%	11.4%	1.3%	8.9%	
男性	327	226	53	1	10	13	12	9	3	
小計	100.0%	69.1%	16.2%	0.3%	3.1%	4.0%	3.7%	2.8%	0.9%	
20歳代	37	32	1	0	0	3	1	0	0	
	100.0%	86.5%	2.7%	0.0%	0.0%	8.1%	2.7%	0.0%	0.0%	
30歳代	39	29	3	0	1	0	3	3	0	
	100.0%	74.4%	7.7%	0.0%	2.6%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%	
40歳代	54	41	6	0	1	0	3	3	0	
	100.0%	75.9%	11.1%	0.0%	1.9%	0.0%	5.6%	5.6%	0.0%	
50歳代	48	32	9	0	5	0	2	0	0	
	100.0%	66.7%	18.8%	0.0%	10.4%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	
60歳代	59	39	12	1	1	3	1	2	0	
	100.0%	66.1%	20.3%	1.7%	1.7%	5.1%	1.7%	3.4%	0.0%	
70～74 歳	51	32	12	0	2	3	0	1	1	
	100.0%	62.7%	23.5%	0.0%	3.9%	5.9%	0.0%	2.0%	2.0%	
75歳以上	39	21	10	0	0	4	2	0	2	
	100.0%	53.8%	25.6%	0.0%	0.0%	10.3%	5.1%	0.0%	5.1%	

<結婚の有無別にみた結果>

「女性」の「結婚していない」、「既婚（共働きである）」では「男性も女性も取得して欲しい」の割合が高く 80%台を占めている。「男性」では「既婚（共働きでない）」では「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の割合が 20.8%で他の層より高くなっている。

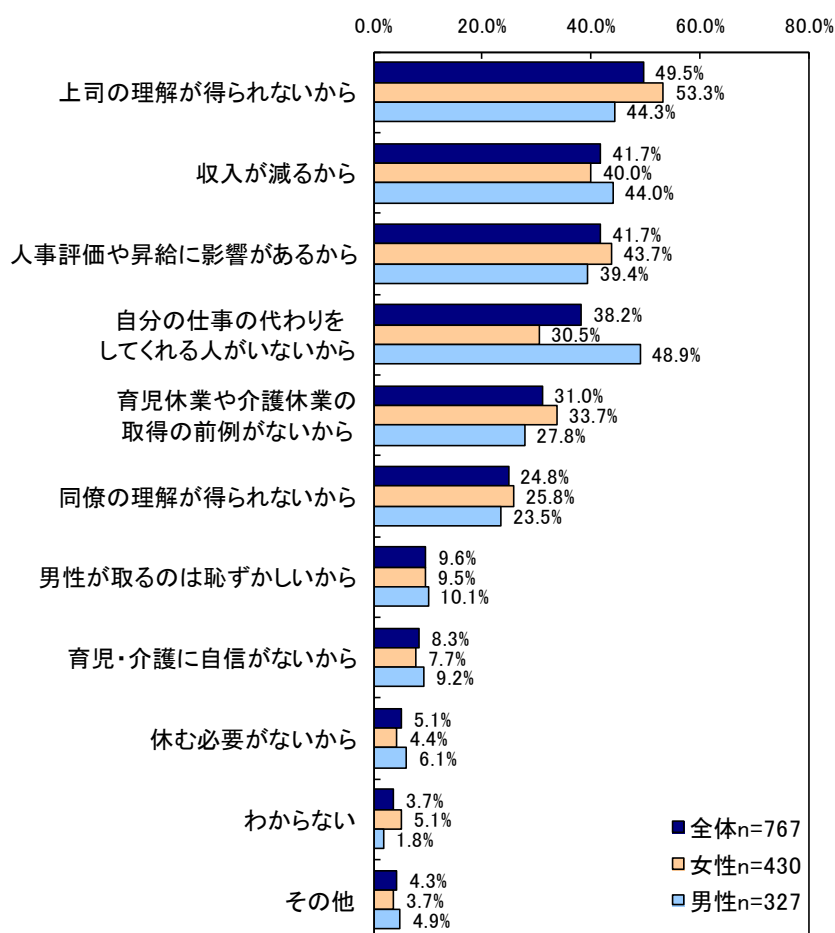
	合計	男性も女性も取得して欲しい	女性が取得したほうがよいが、違和感がある	男性が取得したほうがよいが、違和感がある	男性が取得したほうがよいが、違和感がある	業務への影響を考えると、男性も女性も取得しないうで欲しい	現在、仕事をしていないのでわからない	わからない	その他	無回答
全体	767 100.0%	545 71.1%	101 13.2%	1 0.1%	12 1.6%	47 6.1%	31 4.0%	17 2.2%	13 1.7%	
女性	小計	430 100.0%	313 72.8%	48 11.2%	0 0.0%	2 0.5%	33 7.7%	17 4.0%	7 1.6%	10 2.3%
	結婚していない	89 100.0%	78 87.6%	3 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.5%	0 0.0%	3 3.4%	1 1.1%
	既婚（共働きである）	94 100.0%	78 83.0%	12 12.8%	0 0.0%	1 1.1%	0 0.0%	1 1.1%	2 2.1%	0 0.0%
	既婚（共働きでない）	119 100.0%	76 63.9%	15 12.6%	0 0.0%	0 0.0%	17 14.3%	8 6.7%	1 0.8%	2 1.7%
	死別	69 100.0%	38 55.1%	12 17.4%	0 0.0%	0 0.0%	10 14.5%	4 5.8%	1 1.4%	4 5.8%
	離婚	49 100.0%	38 77.6%	3 6.1%	0 0.0%	1 2.0%	2 4.1%	4 8.2%	0 0.0%	1 2.0%
	その他	6 100.0%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%
	小計	327 100.0%	226 69.1%	53 16.2%	1 0.3%	10 3.1%	13 4.0%	12 3.7%	9 2.8%	3 0.9%
	結婚していない	75 100.0%	49 65.3%	9 12.0%	0 0.0%	3 4.0%	5 6.7%	6 8.0%	3 4.0%	0 0.0%
既婚（共働きである）	106 100.0%	77 72.6%	18 17.0%	0 0.0%	4 3.8%	2 1.9%	3 2.8%	2 1.9%	0 0.0%	
既婚（共働きでない）	106 100.0%	70 66.0%	22 20.8%	0 0.0%	2 1.9%	4 3.8%	2 1.9%	3 2.8%	3 2.8%	
死別	15 100.0%	13 86.7%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
離婚	21 100.0%	14 66.7%	3 14.3%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	
その他	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

9 男性の育児休業や介護休業が進まない理由

問 11 男性の育児休業や介護休業が進まない現状にあります、それはどのような理由からだと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

男性の育児休業や介護休業が進まない理由をみると、「上司の理解が得られないから」の49.5%が最も高く、これに「収入が減るから」と「人事評価や昇給に影響があるから」が同率の41.7%で続いている。これら以外の選択肢で30%を超えているのは、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」(38.2%)、「育児休業や介護休業の取得の前例がないから」(31.0%)となっており、男性が育児休業や介護休業を取得するには、依然、さまざまな障壁があることがうかがえる結果となっている。



<前回との比較>

平成28年調査と比較して5ポイント以上の増減があった項目は、「上司の理解が得られないから」(令和3年49.5%、7.0ポイント増)となっている。

	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	35.1	38.2
同僚の理解が得られないから	23.8	24.8
上司の理解が得られないから	42.5	49.5
収入が減るから	37.7	41.7
人事評価や昇給に影響があるから	38.8	41.7
休む必要がないから	5.2	5.1
育児・介護に自信がないから	9.6	8.3
育児休業や介護休業の取得の前例がないから	30.3	31.0
男性が取るのは恥ずかしいから	12.6	9.6
わからない	8.1	3.7
その他	4.8	4.3

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べ「育児休業や介護休業の取得の前例がないから」の割合が高くなっている。これに対し、「男性」は「女性」と比べ「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』では「上司の理解が得られないから」、「人事評価や昇給に影響があるから」、「収入が減るから」の割合が高くなっている。一方、「男性」では『30～50 歳代』で「収入が減るから」の割合が高くなっている。

	合計	自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	同僚の理解が得られないから	上司の理解が得られないから	収入が減るから	人事評価や昇給に影響があるから	休む必要がないから	育児・介護に自信がないから	育児休業や介護休業の取得の前例がないから	男性が取るのは恥ずかしいから	わからない	その他
全体	767	293 38.2%	190 24.8%	380 49.5%	320 41.7%	320 41.7%	39 5.1%	64 8.3%	238 31.0%	74 9.6%	28 3.7%	33 4.3%
女性	430	131 30.5%	111 25.8%	229 53.3%	172 40.0%	188 43.7%	19 4.4%	33 7.7%	145 33.7%	41 9.5%	22 5.1%	16 3.7%
小計	430	131	111	229	172	188	19	33	145	41	22	16
20歳代	41	11	15	31	17	21	0	1	18	3	0	0
30歳代	54	18	14	35	22	27	1	8	19	4	1	5
40歳代	55	22	16	31	21	28	2	2	18	3	2	3
50歳代	59	14	8	23	32	25	6	5	19	8	5	3
60歳代	79	25	24	42	32	36	1	9	25	6	2	1
70～74 歳	63	23	18	36	20	23	3	3	20	6	4	1
75歳以上	79	18	16	31	28	28	6	5	26	11	8	3
男性	327	160 48.9%	77 23.5%	145 44.3%	144 44.0%	129 39.4%	20 6.1%	30 9.2%	91 27.8%	33 10.1%	6 1.8%	16 4.9%
小計	327	160	77	145	144	129	20	30	91	33	6	16
20歳代	37	14	9	18	16	17	2	1	11	1	3	0
30歳代	39	20	13	18	18	16	3	2	11	3	0	5
40歳代	54	29	10	24	30	22	1	3	15	3	0	6
50歳代	48	22	10	21	31	14	3	4	13	6	1	1
60歳代	59	26	9	24	23	28	3	8	16	9	0	1
70～74 歳	51	29	16	24	14	18	4	6	17	5	0	3
75歳以上	39	20	10	16	12	14	4	6	8	6	2	0

<結婚の有無別にみた結果>

「男性」では結婚の有無に関わらず、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」の割合が高くなっている。「女性」では「結婚していない」と「既婚（共働きである）」で「上司の理解が得られないから」、「人事評価や昇給に影響があるから」の割合が高くなっている。

	合計	自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	同僚の理解が得られないから	上司の理解が得られないから	収入が減るから	人事評価や昇給に影響があるから	休む必要がないから	育児・介護に自信がないから	育児休業や介護休業の取得の前例がないから	男性が取るのは恥ずかしいから	わからない	その他	
全体	767	293 38.2%	190 24.8%	380 49.5%	320 41.7%	320 41.7%	39 5.1%	64 8.3%	238 31.0%	74 9.6%	28 3.7%	33 4.3%	
女性	小計	430	131 30.5%	111 25.8%	229 53.3%	172 40.0%	188 43.7%	19 4.4%	33 7.7%	145 33.7%	41 9.5%	22 5.1%	16 3.7%
	結婚していない	89	23 25.8%	24 27.0%	54 60.7%	39 43.8%	44 49.4%	0 0.0%	9 10.1%	43 48.3%	10 11.2%	1 1.1%	4 4.5%
	既婚（共働きである）	94	33 35.1%	28 29.8%	54 57.4%	43 45.7%	43 45.7%	4 4.3%	8 8.5%	30 31.9%	6 6.4%	1 1.1%	6 6.4%
	既婚（共働きでない）	119	37 31.1%	32 26.9%	58 48.7%	38 31.9%	47 39.5%	6 5.0%	7 5.9%	36 30.3%	10 8.4%	11 9.2%	3 2.5%
	死別	69	21 30.4%	12 17.4%	32 46.4%	29 42.0%	25 36.2%	3 4.3%	5 7.2%	22 31.9%	5 7.2%	5 7.2%	3 4.3%
	離婚	49	14 28.6%	11 22.4%	25 51.0%	19 38.8%	24 49.0%	4 8.2%	4 8.2%	12 24.5%	8 16.3%	4 8.2%	0 0.0%
	その他	6	2 33.3%	3 50.0%	4 66.7%	1 16.7%	5 83.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%
	男性	小計	327	160 48.9%	77 23.5%	145 44.3%	144 44.0%	129 39.4%	20 6.1%	30 9.2%	91 27.8%	33 10.1%	6 1.8%
結婚していない	75	35 46.7%	19 25.3%	32 42.7%	39 52.0%	20 26.7%	6 8.0%	6 8.0%	20 26.7%	8 10.7%	4 5.3%	3 4.0%	
既婚（共働きである）	106	45 42.5%	23 21.7%	49 46.2%	50 47.2%	49 46.2%	4 3.8%	9 8.5%	33 31.1%	12 11.3%	0 0.0%	5 4.7%	
既婚（共働きでない）	106	61 57.5%	31 29.2%	51 48.1%	38 35.8%	42 39.6%	7 6.6%	10 9.4%	27 25.5%	10 9.4%	1 0.9%	5 4.7%	
死別	15	7 46.7%	1 6.7%	5 33.3%	6 40.0%	8 53.3%	2 13.3%	4 26.7%	5 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
離婚	21	11 52.4%	3 14.3%	8 38.1%	10 47.6%	9 42.9%	1 4.8%	1 4.8%	5 23.8%	3 14.3%	0 0.0%	2 9.5%	
その他	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

10 男性と女性の仕事と家庭の関わり方

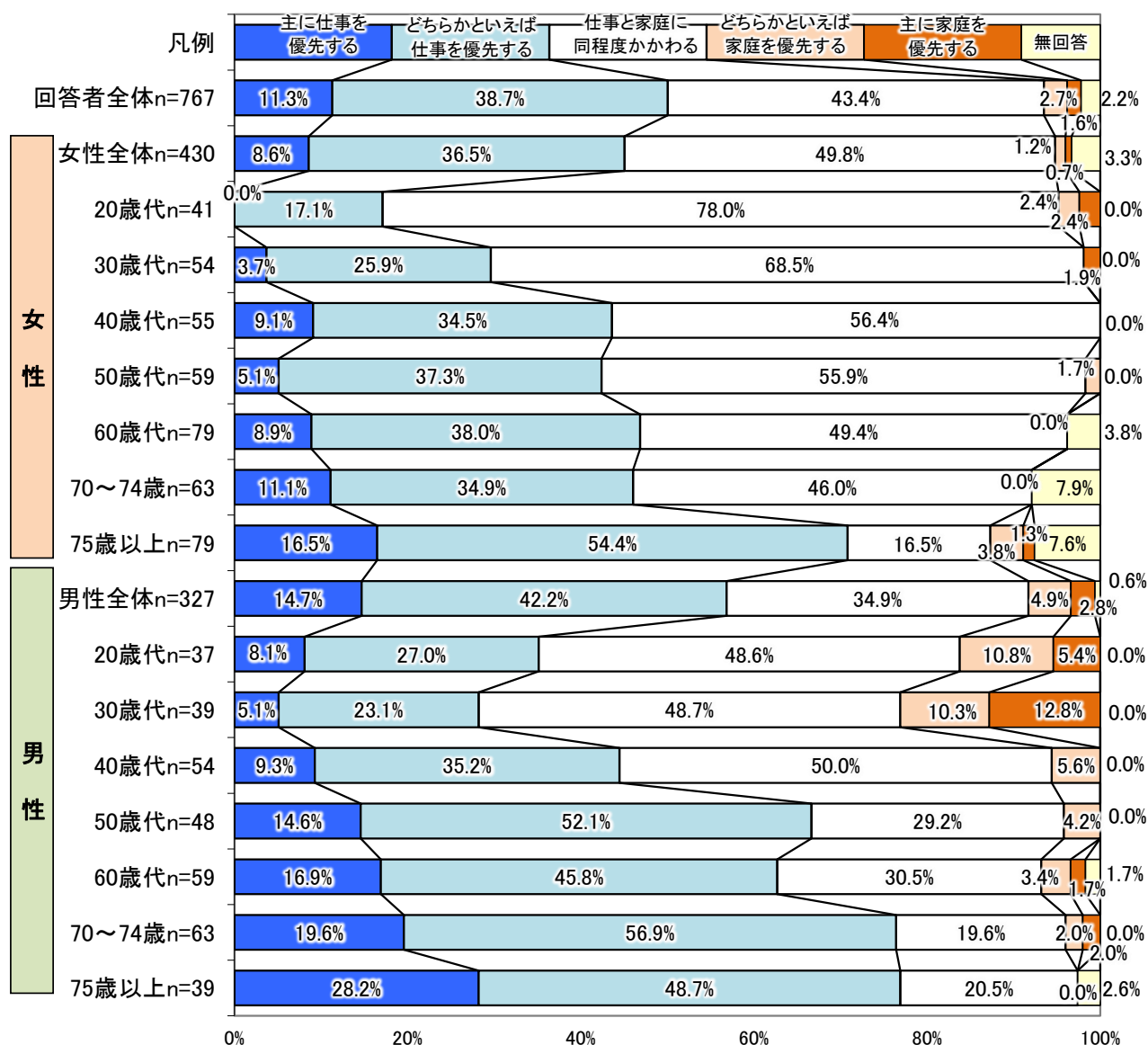
問 12 あなたは男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。(ア)、(イ)それぞれに、次の中から1つずつ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

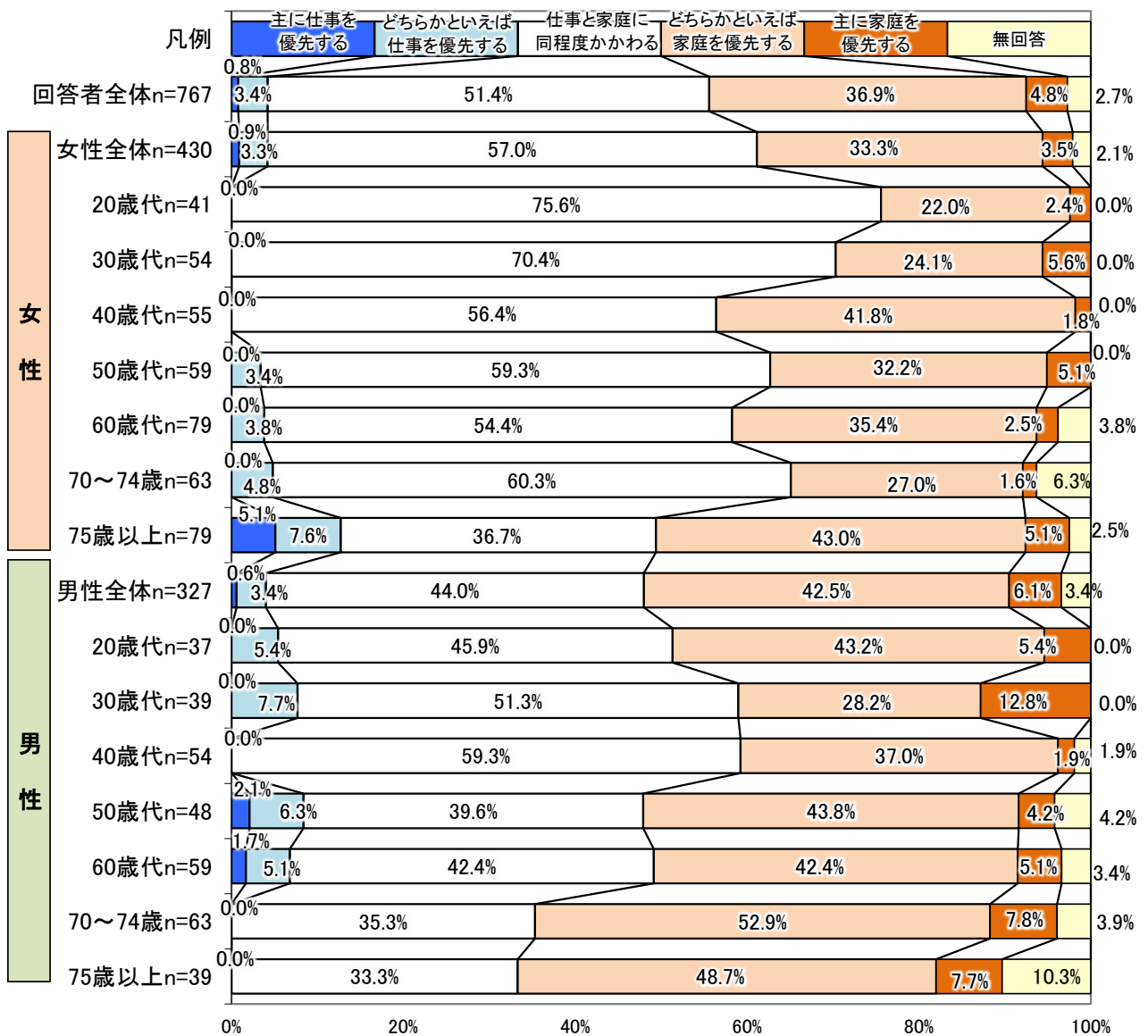
仕事と家庭について(ア)の男性の関わり方をみると、「仕事と家庭に同程度かかわる」の43.4%が最も高く、これに「どちらかといえば仕事を優先する」の38.7%が続いている。「主に仕事を優先する」と「どちらかといえば仕事を優先する」を合わせた『仕事を優先する』層は全体の50.0%を占めている。

一方、(イ)の女性の関わり方をみると、「仕事と家庭に同程度かかわる」の51.4%が最も高く、これに「どちらかといえば家庭を優先する」の36.9%が続いている。「主に家庭を優先する」と「どちらかといえば家庭を優先する」を合わせた『家庭を優先する』層は全体の41.7%を占め、『仕事を優先する』層は4.2%を占めているに過ぎない。

(ア)男性の好ましい関わり方



(イ)女性の好ましい関わり方



<前回との比較>

平成 28 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減があった項目をみると、(ア) の男性の関わり方では、「どちらかといえば仕事を優先する」(令和 3 年 11.3%、9.7 ポイント減)、「仕事と家庭に同程度かかわる」(令和 3 年 43.4%、11.4 ポイント増)となっている。(イ) の女性の関わり方では、「どちらかといえば家庭を優先する」(令和 3 年 36.9%、8.4 ポイント減)、「仕事と家庭に同程度かかわる」(令和 3 年 51.4%、12.9 ポイント増)となっている。「男性」で家庭との関わりを優先する人が増加する一方、「女性」では家庭だけでなく仕事にかかわる人が増加している。

(ア) 男性の好ましい関わり方

(イ) 女性の好ましい関わり方

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %		平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
主に仕事を優先する	20.2	21.0	11.3	主に仕事を優先する	0.5	0.4	0.8
どちらかといえば仕事を優先する	46.6	41.2	38.7	どちらかといえば仕事を優先する	2.5	3.8	3.4
仕事と家庭に同程度かかわる	26.9	32.0	43.4	仕事と家庭に同程度かかわる	34.2	38.5	51.4
どちらかといえば家庭を優先する	1.4	2.1	2.7	どちらかといえば家庭を優先する	50.7	45.3	36.9
主に家庭を優先する	0.8	0.6	1.6	主に家庭を優先する	8.1	6.9	4.8
無回答	4.1	3.1	2.2	無回答	3.9	5.0	2.7
合計	100.0	100.0	100.0	合計	100.0	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

「(ア) 男性の好ましい関わり方」

性別にみると、「女性」は「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が高く、「男性」は『仕事優先』の割合が高い。

性・年代別にみると、「75 歳以上」を除く「女性」では「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が高く、『50 歳以上』の「男性」では『仕事優先』の割合が高い。

「(イ) 女性の好ましい関わり方」

性別にみると、男女とも「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が最も高くなっているが、「男性」では「どちらかといえば家庭を優先する」の割合も高い。

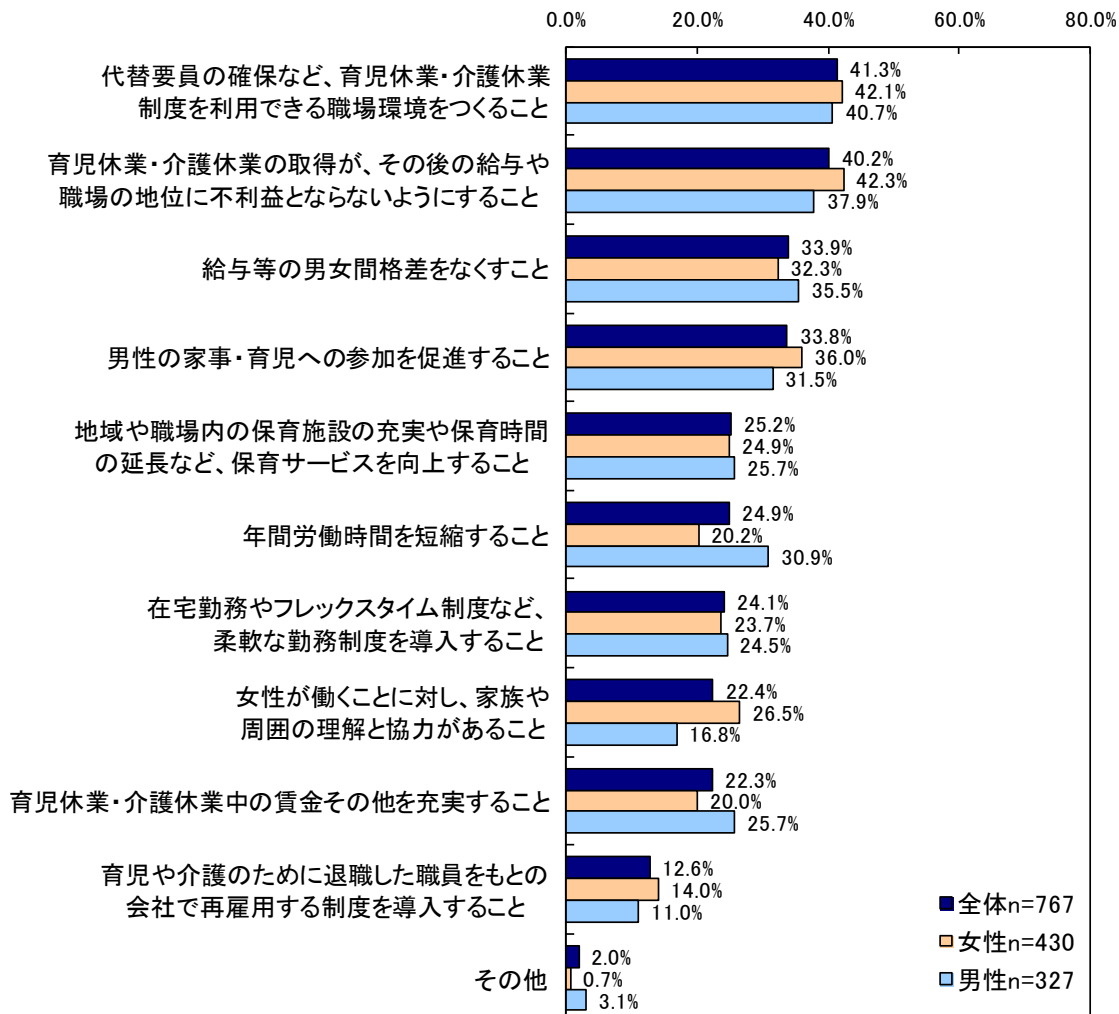
性・年代別にみると、「女性」の『20～30 歳代』では「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が高く、「男性」の『40 歳代以上』では「どちらかといえば家庭を優先する」の割合が高い。

1 1 仕事と家庭の両立のための条件

問 13 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

男女が共に仕事と家庭の両立をしていくための条件をみると、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」の41.3%が最も高く、これに「育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないようにすること」の40.2%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「給与等の男女間格差をなくすこと」(33.9%)、「男性の家事・育児への参加を促進すること」(33.8%)、「地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること」(25.2%)の順となっている。



<前回との比較>

平成 28 年調査と比較して 5 ポイント以上の増加した項目をみると、「給与等の男女間格差をなくすこと」（令和 3 年 33.9%、6.3 ポイント増）、「男性の家事・育児への参加を促進すること」（令和 3 年 33.8%、7.0 ポイント増）、「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」（令和 3 年 12.6%、7.1 ポイント減）となっている。今回の調査では給与の格差の改善や男性の家事・育児の促進についての内容が増加傾向を示している。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
給与等の男女間格差をなくすこと	22.2	27.6	33.9
年間労働時間を短縮すること	19.6	22.8	24.9
男性の家事・育児への参加を促進すること	34.7	26.8	33.8
代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	34.6	38.0	41.3
育児休業・介護休業中の賃金その他を充実すること	17.0	19.7	22.3
育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないようにすること	28.7	40.4	40.2
地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること	32.7	28.8	25.2
育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	20.2	19.7	12.6
在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	20.8	20.4	24.1
女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	37.9	22.7	22.4
その他	1.1	2.1	2.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」では「男性の家事・育児への参加を促進すること」と「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が高く、「男性」では「年間労働時間を短縮すること」の割合が高い。

性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」などの割合が高い。同じく『40～60 歳代』では「男性の家事・育児への参加を促進すること」、「50～60 歳代」、「75 歳以上」では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が高くなっている。

一方、「男性」の「20～30 歳代」では「年間労働時間を短縮すること」、「30～40 歳代」では「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が高くなっている。また、「50 歳代」では「給与等の男女間格差をなくすこと」、「60～70 歳代」では「地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること」の割合が高くなっている。

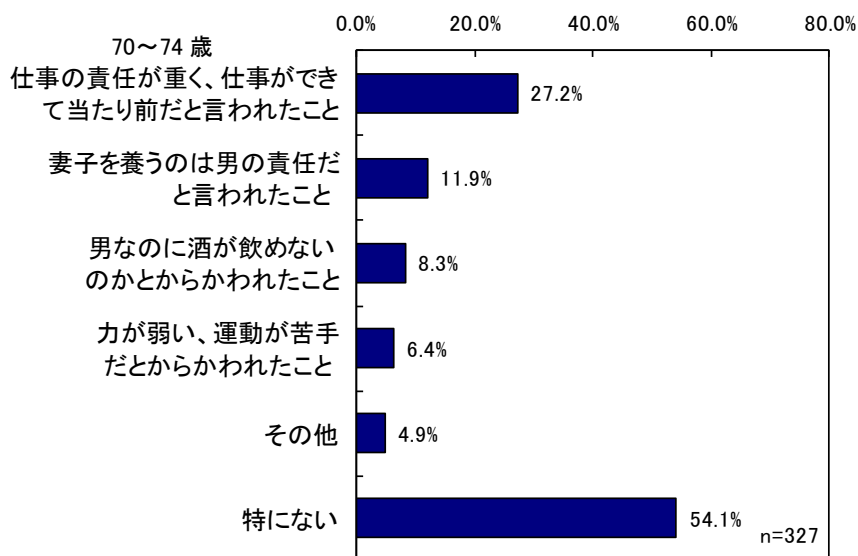
	合計	給与等の男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	男性の家事・育児への参加を促進すること	できる職場環境をつくること	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用すること	育児休業・介護休業中の賃金その他を充実すること	育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないよう、育児休業・介護休業の取得にすること	地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスの向上すること	育児や介護のために退職した職員を導入すること	在宅勤務やフレックスタイムを導入すること	家族や周囲の理解と協力が、女性が働くことに対し、あること	その他
全体	767	260	191	259	317	171	308	193	97	185	172	15	
		33.9%	24.9%	33.8%	41.3%	22.3%	40.2%	25.2%	12.6%	24.1%	22.4%	2.0%	
女性	小計	430	139	87	155	181	86	182	107	60	102	114	3
			32.3%	20.2%	36.0%	42.1%	20.0%	42.3%	24.9%	14.0%	23.7%	26.5%	0.7%
	20歳代	41	17	9	14	19	13	20	8	5	11	11	0
			41.5%	22.0%	34.1%	46.3%	31.7%	48.8%	19.5%	12.2%	26.8%	26.8%	0.0%
	30歳代	54	18	15	15	26	16	22	19	5	20	6	0
			33.3%	27.8%	27.8%	48.1%	29.6%	40.7%	35.2%	9.3%	37.0%	11.1%	0.0%
	40歳代	55	16	12	23	26	11	18	14	9	19	11	1
			29.1%	21.8%	41.8%	47.3%	20.0%	32.7%	25.5%	16.4%	34.5%	20.0%	1.8%
	50歳代	59	23	8	23	18	13	22	15	5	12	20	1
			39.0%	13.6%	39.0%	30.5%	22.0%	37.3%	25.4%	8.5%	20.3%	33.9%	1.7%
60歳代	79	21	21	31	30	14	40	19	9	19	23	0	
		26.6%	26.6%	39.2%	38.0%	17.7%	50.6%	24.1%	11.4%	24.1%	29.1%	0.0%	
70～74歳	63	18	9	22	32	10	32	11	10	12	15	0	
		28.6%	14.3%	34.9%	50.8%	15.9%	50.8%	17.5%	15.9%	19.0%	23.8%	0.0%	
75歳以上	79	26	13	27	30	9	28	21	17	9	28	1	
		32.9%	16.5%	34.2%	38.0%	11.4%	35.4%	26.6%	21.5%	11.4%	35.4%	1.3%	
男性	小計	327	116	101	103	133	84	124	84	36	80	55	10
			35.5%	30.9%	31.5%	40.7%	25.7%	37.9%	25.7%	11.0%	24.5%	16.8%	3.1%
	20歳代	37	9	14	14	19	12	16	9	3	6	3	0
			24.3%	37.8%	37.8%	51.4%	32.4%	43.2%	24.3%	8.1%	16.2%	8.1%	0.0%
	30歳代	39	12	17	15	10	9	10	7	5	13	3	3
			30.8%	43.6%	38.5%	25.6%	23.1%	25.6%	17.9%	12.8%	33.3%	7.7%	7.7%
	40歳代	54	21	14	11	29	13	22	12	5	16	8	4
			38.9%	25.9%	20.4%	53.7%	24.1%	40.7%	22.2%	9.3%	29.6%	14.8%	7.4%
	50歳代	48	25	15	16	17	14	14	12	8	11	12	1
		52.1%	31.3%	33.3%	35.4%	29.2%	29.2%	25.0%	16.7%	22.9%	25.0%	2.1%	
60歳代	59	16	16	15	26	16	25	19	6	16	8	1	
		27.1%	27.1%	25.4%	44.1%	27.1%	42.4%	32.2%	10.2%	27.1%	13.6%	1.7%	
70～74歳	51	18	15	17	21	9	21	15	6	11	14	1	
		35.3%	29.4%	33.3%	41.2%	17.6%	41.2%	29.4%	11.8%	21.6%	27.5%	2.0%	
75歳以上	39	15	10	15	11	11	16	10	3	7	7	0	
		38.5%	25.6%	38.5%	28.2%	28.2%	41.0%	25.6%	7.7%	17.9%	17.9%	0.0%	

12 日常生活で男性がつらいと感じること

問 14 男性にお聞きします。あなたは、日常生活の中で「男もつらい」と感じたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

男性に限定して、日常生活の中で「男もつらい」と感じたことをみると、「特にない」が最も高く54.1%を占めている。これに「仕事の責任が重く、仕事ができで当たり前だと言われたこと」の27.2%、「妻子を養うのは男の責任だと言われたこと」の11.9%が続いている。



<前回との比較>

平成28年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目をみると、「特にない」(令和3年54.1%、5.0ポイント減)となっている。「特にない」がやや減少した分、「仕事の責任が重く、仕事ができで当たり前だと言われたこと」の割合がやや増加している。

	平成23年 n=333 %	平成28年 n=337 %	令和3年 n=327 %
妻子を養うのは男の責任だと言われたこと	23.4	14.2	11.9
男なのに酒が飲めないのかとからかわれたこと	3.6	4.5	8.3
仕事の責任が重く、仕事ができで当たり前だと言われたこと	24.6	22.8	27.2
力が弱い、運動が苦手だとからかわれたこと	2.4	2.7	6.4
その他	1.2	3.3	4.9
特にない	48.9	59.1	54.1

<年代別にみた結果>

年代別にみると、「30～40 歳代」は「特にない」の割合が 40%台で他の年代と比べ低く、その分、「仕事の責任が重く、仕事ができたり前だと言われたこと」の割合が高くなっている。

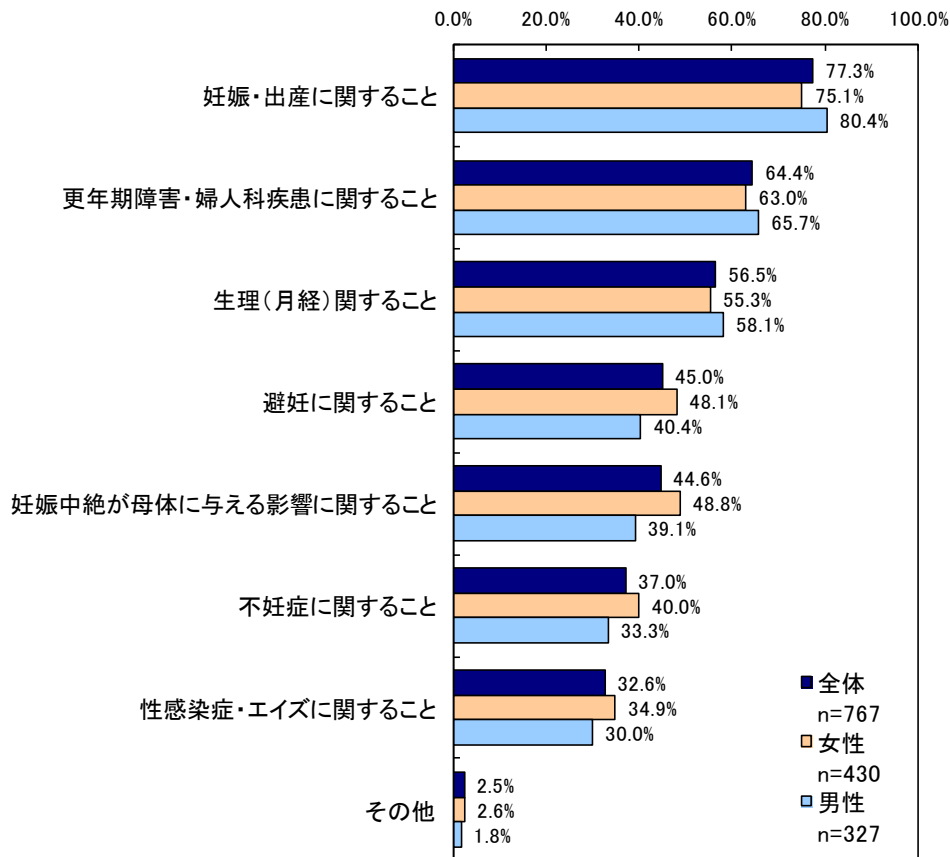
	合計	言 妻 わ れ た こ と	か ら な か わ れ た こ と	男 の に 酒 が 飲 め な い の か と	て 仕 事 の 責 任 が 重 く 、 仕 事 が で き な か た い と 言 わ れ た こ と	か ら か わ れ た こ と	力 が 弱 い 、 運 動 が 苦 手 だ と	そ の 他	特 に な い
男性全体	327	39 11.9%	27 8.3%	89 27.2%	21 6.4%	16 4.9%	177 54.1%		
20歳代	37	7 18.9%	7 18.9%	8 21.6%	10 27.0%	0 0.0%	20 54.1%		
30歳代	39	5 12.8%	4 10.3%	14 35.9%	2 5.1%	5 12.8%	17 43.6%		
40歳代	54	9 16.7%	4 7.4%	19 35.2%	3 5.6%	3 5.6%	25 46.3%		
50歳代	48	6 12.5%	3 6.3%	14 29.2%	2 4.2%	2 4.2%	27 56.3%		
60歳代	59	4 6.8%	2 3.4%	13 22.0%	1 1.7%	3 5.1%	39 66.1%		
70～74 歳	51	5 9.8%	2 3.9%	15 29.4%	2 3.9%	1 2.0%	27 52.9%		
75歳以上	39	3 7.7%	5 12.8%	6 15.4%	1 2.6%	2 5.1%	22 56.4%		

13 女性の体を保護するために知っておいたほうがよいこと

問 15 あなたは、女性の体を保護するために、男女とも知っておいたほうがよいことは、どのようなことだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

女性の体を保護するために男女とも知っておいたほうがよいと思うことについては、「妊娠・出産に関すること」の77.3%が最も高く、これに「更年期障害・婦人科疾患に関すること」の64.4%が続いている。以下、「その他」を除くすべての選択肢で30%を超えている。



<前回との比較>

平成28年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目は、「避妊に関すること」(令和3年45.0%、5.2ポイント増)、「不妊症に関すること」(令和3年37.0%、5.3ポイント増)となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
妊娠・出産に関すること	70.8	73.5	77.3
生理(月経)に関すること	—	—	56.5
更年期障害・婦人科疾患に関すること	67.9	64.4	64.4
性感染症・エイズに関すること	37.4	32.7	32.6
妊娠中絶が母体に与える影響に関すること	47.9	45.5	44.6
避妊に関すること	40.9	39.8	45.0
不妊症に関すること	29.2	31.7	37.0
その他	0.8	1.8	2.5

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」では「妊娠中絶が母体に与える影響に関すること」、「避妊に関すること」、「不妊症に関すること」と具体的な内容の割合が高く、「男性」では「妊娠・出産に関すること」の割合が高い。

性・年代別にみると、「女性」では「20～40 歳代」で各選択肢に対する回答率が高い。同じく「30 歳代」と「50 歳代」では「更年期障害・婦人科疾患に関すること」を含むすべての項目の割合が高くなっている。

一方、「男性」も「女性」と同様に「20～40 歳代」で各選択肢に対する回答率が高い。「50～60 歳代」では「妊娠・出産に関すること」と「更年期障害・婦人科疾患に関すること」の割合が高くなっている。

	合計	妊娠・ 出産に 関する こと	生理 (月経) 関する こと	に更 年 期 障 害 ・ 婦 人 科 疾 患 関 する こと	る性 感 染 症 ・ エイ ズに 関 する こと	影 響に 関 する こと	妊 娠 中 絶 が 母 体 に 与 える こと	避 妊 に 関 する こと	不 妊 症 に 関 する こと	そ の 他
全体	767	593	433	494	250	342	345	284	19	
		77.3%	56.5%	64.4%	32.6%	44.6%	45.0%	37.0%	2.5%	
女性	430	323	238	271	150	210	207	172	11	
小計		75.1%	55.3%	63.0%	34.9%	48.8%	48.1%	40.0%	2.6%	
20歳代	41	33	32	21	24	26	30	28	0	
		80.5%	78.0%	51.2%	58.5%	63.4%	73.2%	68.3%	0.0%	
30歳代	54	51	46	42	27	37	37	32	3	
		94.4%	85.2%	77.8%	50.0%	68.5%	68.5%	59.3%	5.6%	
40歳代	55	42	38	36	21	27	30	32	2	
		76.4%	69.1%	65.5%	38.2%	49.1%	54.5%	58.2%	3.6%	
50歳代	59	42	32	44	15	26	23	27	2	
		71.2%	54.2%	74.6%	25.4%	44.1%	39.0%	45.8%	3.4%	
60歳代	79	60	39	44	24	34	39	22	1	
		75.9%	49.4%	55.7%	30.4%	43.0%	49.4%	27.8%	1.3%	
70～74 歳	63	43	25	38	17	29	23	14	0	
		68.3%	39.7%	60.3%	27.0%	46.0%	36.5%	22.2%	0.0%	
75歳以上	79	52	26	46	22	31	25	17	3	
		65.8%	32.9%	58.2%	27.8%	39.2%	31.6%	21.5%	3.8%	
男性	327	263	190	215	98	128	132	109	6	
小計		80.4%	58.1%	65.7%	30.0%	39.1%	40.4%	33.3%	1.8%	
20歳代	37	30	30	21	20	25	21	23	0	
		81.1%	81.1%	56.8%	54.1%	67.6%	56.8%	62.2%	0.0%	
30歳代	39	35	31	23	16	17	20	20	3	
		89.7%	79.5%	59.0%	41.0%	43.6%	51.3%	51.3%	7.7%	
40歳代	54	45	34	35	15	20	25	21	1	
		83.3%	63.0%	64.8%	27.8%	37.0%	46.3%	38.9%	1.9%	
50歳代	48	42	29	36	14	17	16	17	1	
		87.5%	60.4%	75.0%	29.2%	35.4%	33.3%	35.4%	2.1%	
60歳代	59	44	30	44	12	16	20	13	1	
		74.6%	50.8%	74.6%	20.3%	27.1%	33.9%	22.0%	1.7%	
70～74 歳	51	38	19	35	10	21	18	7	0	
		74.5%	37.3%	68.6%	19.6%	41.2%	35.3%	13.7%	0.0%	
75歳以上	39	29	17	21	11	12	12	8	0	
		74.4%	43.6%	53.8%	28.2%	30.8%	30.8%	20.5%	0.0%	